

マイクロカプセル製剤

ダイアジン
SLゾル



■成分・性状

名 称	ダイアジン マイクロカプセル剤
成分と含有量	ダイアジン(PRTR・第1種)……25.0% (2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6)- ジエチルチオホスフェート
化 学 名	
性 状	類白色水和性粘稠懸濁液体
比 重	1.01
pH	7～9

■安全性

●毒性：普通物*

LD50値またはLC50値(mg/kg)	Toxicol	Lab.(英国)1993年
急性経口毒性	ラット ♂、♀ マウス ♂、♀	>5,000 >5,000 >2,000
急性経皮毒性	ラット ♂、♀	
眼 刺 激 性	ウサギ	陰性
皮 ぶ 刺 激 性	ウサギ	陰性

*普通物とは毒劇物に該当しないものを指している通称。

●生態毒性(水生生物)：区分Ⅰ(GHS分類)

コ イ	急性毒性LC50	>1,000mg/ℓ(96時間)
オオミジンコ	急性遊泳阻害EC50	1.53μg/ℓ(48時間)
緑 藻	生長阻害ErC50	65.4mg/ℓ(72時間)

●ミツバチへの影響：散布45日後の導入で、影響は認められず。

■適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数				
かんしょ	ナカジロシタバ	1,000倍	100～300ℓ/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	3回以内				
	コガネムシ類幼虫	50倍	100ℓ/10a	植付前	1回	全面土壌混和 又は 畝 立 前 作 条 散 布	（マイクロカプセル剤の植付前の 処理は1回以内、マイクロ カプセル剤の散布は2回以内、 粒剤の散布は2回以内）				
		25倍				全面土壌混和		1回			
		25～50倍					全面土壌混和		2回以内		
		50倍								は種前	
25倍		定植前(本圃) 植付時(仮植床)									
50倍			ポット育苗時								
500倍				1,000ℓ/10a	植付時	育苗ポット灌注					
25～50倍		100ℓ/10a		全面土壌混和							
100倍		200～400ℓ/10a	植付前								
さくら		アメリカシロヒトリ			200～700ℓ/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内		
芝	シバツトガ、 スジキリヨトウ、 シバオサゾウムシ成虫	1,000倍		0.3ℓ/m ²	4回以内					散布	
	ケラ	250倍	1ℓ/m ²	土壌注入							
	シバオサゾウムシ幼虫		0.7～1ℓ/m ²								散布
	コガネムシ類幼虫		25倍								
樹木類	16g/培土m ³	400～2,000ml /培土m ³	鉢上げ時 又は鉢代え時		1回	培土混和					

⚠使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使い切ってください。
- 貯蔵中に沈殿を生ずることがあるので、使用直前に容器をよく振って使用してください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ所定量の範囲内で調節してください。
- 本剤の散布薬液は希釈調製後できるだけ速やかに使用してください。
- 希釈調製後に静置しておいた場合は、散布前に十分攪拌してください。
- コガネムシ類幼虫、シバオサゾウムシ幼虫に対して土壌注入処理をする場合には、農業を高圧噴射できるインジェクターを使用してください。
- コガネムシ類幼虫に対して散布処理をする場合には、コアリング時の目土前に処理してください。
- 樹木類の培土に処理する場合には、培土中に薬液が十分行き渡るように所定量の範囲内で使用液量を調整し、培土とよく混和してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
- ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかけられないようにして

- ください。
- ②関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかけられないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 誤飲などのないよう注意してください。
- 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の処置を受けてください。
- 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤があります。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。
- 眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣

- などを着用してください。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。
- 低温時は保管場所に十分注意し、凍結を避けてください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場等に放置せず、適切に処理してください。

この印刷物は平成29年5月現在の登録内容に準拠して作成しました。

製造

日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号(明治安田生命ビル)
TEL.03-6731-5321 FAX.050-3730-7867



効きめが長い 安全性にすぐれる

マイクロカプセル製剤

ダイアジン
SLゾル

コガネムシ類幼虫防除に、1回使用で長く効く!

■特長

① 1回使用でコガネムシ類幼虫を150～180日以上防除。

ダイアジンを高分子膜で包んだマイクロカプセル製剤のため、安定した状態で長期間保たれ、土壌中で150日から180日以上長期にわたり持続効果を発揮します。

② 毒性が大幅に軽減されました。

普通物*です。

③ 低臭性の薬剤です。

水ベースの製剤のため、散布時の臭いが少ない薬剤です。



コガネムシ類幼虫

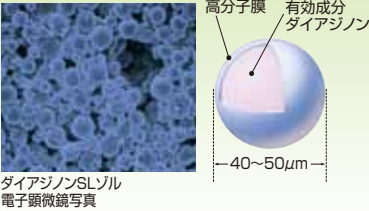
*普通物とは毒劇物に該当しないものを指している通称。

®は日本化薬株式会社の登録商標です。

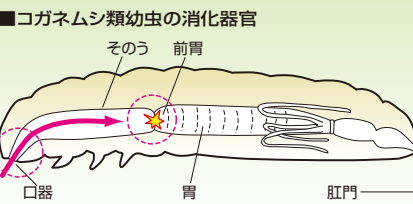
マイクロカプセル製剤



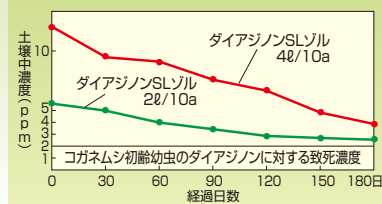
■マイクロカプセル製剤について
ダイアジノンSLゾルのマイクロカプセルは、平均粒径が40～50ミクロンの微粒子です。製剤は粘りのある白色の液体で、水に希釈すると牛乳状になります。



■ダイアジノンSLゾルの食毒作用
ダイアジノンSLゾルは、コガネムシ類幼虫の採餌行動とともに体内に取り込まれます。その際「前胃」と呼ばれる消化器官の中でカプセルの膜が破壊され、有効成分のダイアジノンが放出し、殺虫効果を発揮します。



■土壌中の安定性 日本化薬(株)
土壌中で150日から180日以上長期にわたり効果を発揮します。また本剤は、灌水や降雨による土壌中の移動や流出が極めて少なく、常に安定して分散しています。



上手な使い方

かんしょ、さといも、やまのいも

植付前の1回使用で、収穫までコガネムシ類幼虫を防除できます。

効果的な散布方法

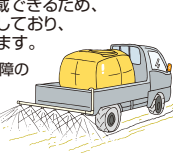
●動力噴霧機散布
薬液が霧状に飛散しないようにノズルを調整してください。



●乗用トラクター搭載散布
散布と土壌混和が同時にできます。



●軽トラック搭載散布
大容量のタンクを搭載できるため、大面積への散布に適しており、散布時間が短縮できます。
注) 半クラッチ走行は故障の要因となりますので、ご注意ください。



トラクター搭載散布の場合は、散布時に混和が同時に行なえます。

1 整地

散布前に畑の耕起、碎土を十分に
行ない、ていねいに整地して
ください。

2 薬剤希釈

希釈後は直ちに散布して
ください。

使用前には
ボトルをよく
振ってください。

薬量
10a当たり
SLゾル2～4ℓ*
水100ℓ

3 薬剤散布

畑の全面にまきむらのないよう
均一に散布してください。薬剤の
ないところは効果があり
ません。

4 効果的な使い方

被害の多い圃場では、特に圃場の
外周をていねいに散布して
ください。

5 混和

散布後、なるべく早く混和して
ください。混和は15～20cm
の深さで、圃場全面に均一に
するようにしてください。

6 植付

*やまのいものみ4ℓ

いちご

育苗時(ポット、仮植床)、本圃定植前の各1回使用で、コガネムシ類幼虫を長期間防除できます。マイクロカプセルだから、根痛みの心配もありません。

1 整地

散布前に耕起、碎土を十分に
行ない、ていねいに
整地して
ください。

定植前の本圃
でも使えます。

2 薬剤希釈

希釈後は直ちに散布してください。
希釈後に静置した場合は、散布前に
十分攪拌して
ください。

使用前には
ボトルをよく
振ってください。

SLゾル使用量(10a当たり)
本圃 4ℓ
仮植床 2ℓ

+

水 100ℓ

3 薬剤散布

本圃の全面にまきむらのないよう
均一に散布してください。薬剤の
ないところは効果がありません。

4 混和

散布後、なるべく早く混和してく
ださい。混和は15～20cm
の深さで均一にしてください。

5 定植

1 土詰め・植付

床土をポットに詰め、苗を植え付け
ます。

2 薬剤希釈

ポット育苗では
500倍液で使用
してください。

使用前には
ボトルをよく
振ってください。

SLゾル使用量(10a当たり)
ポット
育苗時 2ℓ

+

水 1,000ℓ

3 薬剤灌注

育苗床に散布液が
たまらないようにし
てください。

1ポット当たり
110～140ccが目安です。
(7,000～9,000ポット
/10aの場合)

4 定植

育苗期間中の
コガネムシ類防除は
必要ありません。

試験成績(コガネムシ類幼虫)

かんしょ

平成7年 鹿児島県大隅農業改良普及所

供試薬剤	薬量	被害いも率(%)	薬害
ダイアジノンSLゾル	25倍液100ℓ/10a	12.6	—
A 粒 剤	9kg/10a	35.7	—
無 処 理	—	50.0	—

●品種:コガネセンガン ●薬剤処理:5/17 ●植付け:5/28
●調査:11/2(コガネムシ幼虫の食害痕数を30株/区調査)

【考察】
コガネムシの防除対策として、畦立前のダイアジノンSLゾル(25倍希釈)処理は防除効果が高く、省力化の面からも有効と思われる。

さといも

平成22年 (社)日本植物防疫協会 研究所 宮崎試験場

供試薬剤	薬量	被害いも率(%)	防除価	収量(kg/5株)	薬害
ダイアジノンSLゾル	25倍液100ℓ/10a	1.96	84	17.7	—
	50倍液100ℓ/10a	4.72	61	18.0	—
無 処 理	—	12.22	—	15.9	—

●品種:石川早生 ●薬剤処理:4/21 ●植付け:4/21
●調査:10/4に各区中央部の5株を堀上げ、被害の有無と収量を調査 ●対象害虫:放虫(各区10頭)

【考察】
ダイアジノンSLゾル25倍希釈液の100ℓ/10a 全面散布土壌混和は、同剤50倍希釈液と比較して優る防除効果が得られた。

やまのいも

平成10年 新潟県農業総合研究所園芸研究センター

供試薬剤	薬量	被害株率(%)	被害度	対無処理比(%)	重量(g)	薬害
ダイアジノンSLゾル	25倍液100ℓ/10a	3.3	1.6	9.0	824.7	—
B粒剤	9kg/10a×2回	14.2	5.8	32.6	849.3	—
無 処 理	—	31.7	17.8	100.0	870.0	—

●品種:アルプス南部改良系A ●薬剤処理:4/21 ●植付け:4/22
●調査:10/1に1区12.0m²(40株)を掘取り、10/6に被害株率と個体ごとの被害度を調査し、3区平均を算出

【考察】
ダイアジノンSLゾル25倍希釈液の100ℓ/10a 全面散布土壌混和は、対照区、無処理区と比較して被害株率、被害度ともに低く、高い効果が認められた。

いちご

平成13年 (社)日本植物防疫協会 研究所 宮崎試験場

供試薬剤	使用液量	被害株率(%)	2区平均18ポット当たりの数値			薬害
			被害株数	生存幼虫数	重量(g)	
ダイアジノンSLゾル500倍	1,000ℓ/10a	0	0	0	0	—
無 処 理	—	63.9	11.5	12.5	—	—

●品種:とよのか(9cmビニルポット育苗) ●薬剤処理:8/30に育苗ポット灌注(8,000株/10a とすると125mℓ/ポット)
●ランナー受け:7月上旬開始 ●調査:9/26(処理27日後・定植期)各ポット苗を分解し、生存幼虫数と根部の被害株数を調査 ●対象害虫:2～3齢幼虫を1頭/ポット処理前放虫

【考察】
ダイアジノンSLゾル500倍の1,000ℓ/10a育苗ポット灌注は、高い防除効果が認められた。

樹木類(コニファー)

平成12年 千葉県農業試験場

供試薬剤	希釈倍数	使用液量	幼虫数(匹)	新芽伸長(cm)	根生重(g)	薬害
ダイアジノンSLゾル	16g/培土m ³	400mℓ/培土m ³	0	40.2	71.3	—
	8g/培土m ³		0	35.9	58.9	—
無 処 理	—	—	0.7	25.8	20.8	—

●品種:山武杉
●薬剤処理:培養土混和処理
培養土1m³当たり、8～16gの供試薬剤を400mℓの水に希釈して、培養土に混和した。
●鉢上げ:6/5
●調査:9/29(接種63日後)に全株を掘取り幼虫数、新芽の長さ、根生重を調査
●対象害虫:ドウガネブイブイの産卵10日後卵を、4卵/ポット接種



【考察】
本剤処理区は無処理区と比べて高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。処理薬量間に効力差は認められなかった。

ひのき苗

平成5年 愛媛県林業試験場

供試薬剤	薬量	得苗率(%)	薬害
ダイアジノンSLゾル	100倍液200ℓ/10a	22.0	—
	100倍液400ℓ/10a	64.0	—
A 粒 剤	9kg/10a	0	—
無 処 理	—	2.0	—

●供試苗:ひのき1回床替2年生実生苗 ●植付け:4/13
●処理:植付前全面散布後土壌混和 ●調査:10/12

*得苗率=(無被害+微害)÷供試苗数×100

【考察】
異常気象(冷夏・長雨)により試験地全体で得苗率が低い傾向にあったが、ダイアジノンSLゾルは得苗率において対照薬剤に優る効果が認められた。